

# ヨエル書とラオデキアのセブンスデー・アドベンチスト教会 - 第二十八号

Jeff Pippenger

2026-01-14

## 二十八番

私たちはマタイの福音書における十二のメシア的成就を特定し、それらを十四万四千人の道標と対応させています。私たちは、あらゆる改革運動の始まりとなる「終わりの時」の道標として、キリストの誕生を特定しました。キリストの誕生は、十四万四千人にとっての終わりの時である1989年と一致します。その道標の後には必ず、メッセージが公に出され、以後は人々がそれに対して責任を問われるようになるという道標が続きます。

第二のメシア的成就是キリストのたとえ話の教えであり、それは、知識の増加がその特異な世代へのメッセージを生み出す「終わりの時」の後に体系化されるメッセージを提示するために用いられる方法論を定義している。ミラー派にとっては1831年であり、十四万四千の運動にとっては1996年であった。メッセージが公にされた後、それは試練の過程の始まりを画する預言の成就によってカづけられる。そのカづけは、ミラー派にとっては1840年8月11日、十四万四千の運動にとっては9/11であった。

第三のメシア的な道しるべは9/11の使者たちである。

そして彼はナザレと呼ばれる町に来て住んだ。これは、預言者たちによって語られた「彼はナザレ人と呼ばれる」という言葉が成就するためであった。マタイ 2:23

## 予測

エッセイの株から一本の芽が出て、その根から一本の若枝が育つ。イザヤ書 11:1、士師記 13。

ヘブライ語で「Branch」と訳される語の語根はネツェルで、これはナザレの語根でもある。「Branch」はナザレのスラム街から来る。

主は、地上にご自身が生きておられた時と同じように、謙遜な境遇の中から青年たちをご自身の御用のために召し出される。主は、学識あるラビたちをお選びにはならず、最初の弟子としては、謙遜で無学な漁師たちをお選びになった。主には、貧困と無名の中から召し出される働き人がいる。日々の平凡な務めに従事し、粗末な衣をまとい、人々からは取るに足らない者と見なされている。しかし彼らは、貴い宝石となって、主のために明るく輝くようになる。「わたしがわたしの宝を集めるその日に、彼らはわたしのものとなる」と万軍の主は言われる。『レビュー・アンド・ヘラルド』1903年5月5日。

聖霊の権威、ホワイト夫人の権威、そしてジョーンズとワゴナーに対する靈感による推薦は、コラがモーセの権威を退けたのと同様に、1888年に退けられた。

このようにして、第三の天使のメッセージが宣べ伝えられるだろう。それが最大の力をもって与えられる時が来ると、主はへりくだった器を通して働き、ご自分に奉仕することに身をささげた人々の心を導かれる。働き人たちは、学問の諸機関での訓練というよりも、むしろ聖霊の油注ぎによって適任とされる。信仰と祈りの人々は、神が彼らに与える言葉を宣言するために、聖なる熱心に駆り立てられて出て行く。バビロンの罪が暴かれるだろう。教会の儀式や規定の遵守を世俗権力で強制することの恐るべき結果、心靈主義の侵入、ひそかでありながら急速な教皇権の進展—これらすべてが仮面をはがされる。これらの厳粛な警告によって、人々は心を揺り動かされる。このような言葉を一度も聞いたことのない何千何万という人々が耳を傾けるだろう。彼らは驚きつつ、バビロンとは教会のことであり、誤りと罪、そして天から彼女に送られた真理を拒んだがゆえに墮落したのだ、という証言を聞く。人々が熱心に「これらのことは本当ですか」と問いかけて、これまで彼らを教えてきた教師たちのもとへ行くと、牧師たちは作り話を持ち出し、耳ざわりのよいことを預言して、彼らの恐れをなだめ、目覚めさせられた良心を静める。しかし、多くの人々が人間の権威だけでは満足せず、明白な「主はこう言われる」を求めるため、大衆の支持を受ける牧師たちは、昔のパリサイ人のように、自らの権威に疑問を呈されて怒りに満ち、そのメッセージをサタンのものだと非難し、それを宣べ伝える者たちをのしり迫害するよう、罪を好む群衆を扇動するだろう。『大いなる闘争』606

ナザレのスラム街から来たども唇が、イザヤ書二十七章の「討論」にやって来た。

量りをもって、それが芽を出すとき、あなたはそれと論じるであろう。彼は東風の日に、その荒い風をとどめる。イザヤ書 27:8

イスラムの「東の風」（「第三の災い」として表され、また「諸国民の怒り」とも呼ばれるもの）は、9/11に解き放たれ、直ちに抑え込まれた。

その時、救いの働きが終わろうとしている間に、地上には患難が臨み、諸国民は怒るが、第三天使の働きを妨げないように抑えられる。その時、「後の雨」、すなわち主の御前からの潤いが下り、第三天使の大いなる叫びに力を与え、最後の七つの災いが注ぎ出される時期に堅く立てよう聖徒たちを備える。『初期の著作』85。

モーセ、エレン・ホワイト、A・T・ジョーンズ、E・J・ワグナーは、ハバクク書2章の見張り人として9・11において持ち場に就き、東風が到来すると始まるイザヤの「論争」の最中に自分たちが何を語るのかを問いかけた。イザヤは、その「論争」こそが神の民から罪を清めるものと言う。

量をもって、それが芽を出すとき、あなたはそれと論じるだろう。彼は東風の日には、その荒々しい風をとどめる。ゆえに、このことによってヤコブの不義は清められる。彼の罪を取り除く実は、これがすべてである。彼が祭壇のすべての石を、打ち砕かれた白亜の石のようにするとき、木立と像は立ち残らない。イザヤ書 27:8、9。

イスラムが解き放たれ、その後抑えられた9/11において後の雨が測られたのかどうかをめぐるこの「論争」こそが、ヤコブの咎を取り除き、こうしてヤコブをイスラエルへと変える方法である。契約を代表する人物であるヤコブがイスラエルへと移行するという聖書的転換は、1856年を指し示している。その年にフィラデルフィア的なミラー派運動がラ

オデキヤ的なミラー派運動となり、七年後にはラオデキヤ的なセブンスデー・アドベンチスト教会となった。このミラー派史における転換は、十四万四千の歴史における道標を指し示している。すなわち、十四万四千のラオデキヤ的運動が十四万四千のフィラデルフィアの運動へと変わる時である。その転換点こそ、取って代わる者を意味するヤコブが、勝利者を意味するイスラエルへと変わる時である。

「論争」はヤコブの罪を清め、彼は勝利者イスラエルとなる。イスラエルとされる者たちは、言葉の血と彼らの証しという言葉によって打ち勝つ。

彼らは、小羊の血と自分たちの証しという言葉によって彼に打ち勝ち、死に至るまで自分のいのちを惜しまなかった。ヨハネの黙示録 12:11

「彼らの証しという言葉」は、ハバククの見張りが理解を求めたメッセージである。それは、彼らの聖化と、彼らの義認である小羊の血とを表している。

私は見張りの持ち場に立ち、やぐらに身を置き、彼が私に何と言われるか、また私が戒められるときに何と答えるかを見よう。ハバクク書 2:1

「reproved」という語は「argued with」を意味し、ヤコブの罪を取り除くイザヤの「debate」を表している。ハバクク書の見張りは、自分の証しが何であるべきかを知りたいと願っており、ハバククの板が、読もうと望む者が聖書を素早く読み進め、信仰による義認というメッセージを見いだせるようにするメッセージであると告げられている。ハバクク書2章は、最初の四節の終わり、その見張りが信仰によって義とされる者の部類に属することを明確に示している。

見よ、彼の魂は高ぶっており、彼のうちに正しくない。しかし、義人は自分の信仰によって生きる。ハバクク書 2:4.

それら二枚の板に記されたメッセージは、エレミヤの古い道である。だが、エレミヤの見張りがラッパを吹き鳴らしたとき、心が高ぶっている反逆者の一団は、耳を貸そうとしなかった。彼らは前の節に出てくるのと同じ一団で、安息と憩いを見いだすために古い道を歩むことを拒んだ者たちである。

主はこう言われる。道の分かれ道に立ち、見渡し、昔からの道、どこに良い道があるかを尋ね、その中を歩め。そうすれば、あなたがたは魂の安らぎを見いだす。しかし彼らは、「私たちはそこを歩まない」と言った。また、私はあなたがたの上に見張り人を立て、「ラッパの音に耳を傾けよ」と言った。しかし彼らは、「私たちは聞かない」と言った。エレミヤ書 6:16、17.

9/11に神の民の上に立てられた見張り人はモーセ、エレン・ホワイト、ジョーンズ、ワゴナーであり、これはモーセのども唇によって象徴されていた。そのども唇は、彼が四十年間用いていなかった言語であるエジプト語を話すことを恐れていたことによって象徴されていた。モーセとともに紅海を渡ったすべてのヘブライ人や雑多な民に比べると、モーセは外国訛りのある人だった。彼の訛りはナザレ人の訛りであった。ペテロの訛りもまた際立っていた。

しばらくして、そこに立っていた人たちがペテロのところに来て言った。「確かに、おまえもあの者たちの一人だ。おまえの言葉づかいでわかる。」マタイによる福音書 26:73.

ペテロの物語に関わる論争では、彼は三度嘘をつき、訛り、あるいはどもる舌によってその論争の場で見分けられた。論争の中のある一群は神にこう尋ねた。「この論争で私は何を言えばよいのですか」。彼らは古い道を「見」て、ラッパの音を「聞く」。彼らは見て聞き、そしてついに「論じる」とき、打ち勝つ。終わりの日に打ち勝つためのメッセージは、ラオデキアのメッセージとして表されている。ラオデキア教会とは異なり、フィラデルフィア教会には叱責がない。

勝利を得る者を、わたしの神の宮の柱とし、彼はもはや外に出て行くことはない。わたしは彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都の名、すなわち天から、わたしの神のもとから下って来る新しいエルサレムの名を書き記す。さらに、わたしの新しい名を彼の上に書き記す。耳のある者は、御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。ヨハネの黙示録 3章12、13節。

非難されていないにもかかわらず、フィラデルフィアへの約束は「勝利を得る者」にのみ与えられている。フィラデルフィアの教会はラオデキアの教会と対比されており、勝利を得る必要のある者たちと、すでに勝利した者たちという二つのグループによって区別されている。フィラデルフィアの教会はラオデキアの教会と対比され、ラオデキアの教会はマタイ25章の愚かな乙女たちである。

「愚かな乙女たちに象徴される教会の状態は、またラオデキアの状態とも呼ばれている。」レビュー・アンド・ヘラルド、1890年8月19日。

ツインタワーが崩壊し天使が降臨した9/11に、ジョーンズとワグナーはラオデキアへのメッセージの提示を始め、「後の雨」をめぐる論争が始まった。エレミヤのラッパのメッセージは第七のラッパ、すなわち第三の災いであり、ハバククの1843年と1850年の表に示された諸真理（すべての真理）によって表されるいにしへの道においてイスラムと同定されているものである。ラオデキアへのメッセージは救いの唯一の望みであり、「救い」という語は癒やしを意味する。キリストがラオデキア人の心の戸を叩いておられるご自身の姿を示されるにせよ、あるいはラオデキア人に対し、もし彼と和解するなら彼もまたその者と和解すると約束しておられるにせよ、ラオデキア的なセブンスデー・アドベンチストに与えられているのは癒やしのメッセージだけである。

第四のメシア的道標は、9/11のラオデキアへのメッセージである。

これは、預言者イザヤによって語られた「彼は自ら私たちの弱さを負い、私たちの病を担った」ということばが成就するためであった。マタイ 8:17

## 予測

まことに、彼は私たちの悲しみを負い、私たちの痛みを担った。しかし、私たちは彼を、打ちのめされ、神に打ち据えられ、苦しめられた者だと見なした。イザヤ書 53:4

ラオデキアにある教会の天使にこう書き送れ. アーメンであり、忠実で真実な証人、神の創造の初めである方がこう言われる. わたしはあなたの行いを知っている. あなたは冷たくも熱くもない. むしろ、あなたが冷たいか熱いかであればよいのに. だから、あなたがぬるくて、冷たくも熱くもないので、わたしはあなたをわたしの口から吐き出す.

なぜなら、あなたは「私は富んでおり、豊かになり、何一つ必要なものはない」と言っているが、自分がみじめで、哀れで、貧しく、盲目で、裸であることを知らないからである.

わたしはあなたに勧める. 富むために、火で精錬された金をわたしから買いなさい. また、身を覆うための白い衣を買い、あなたの裸の恥が現れないようにしなさい. そして、見えるようになるために、目の薬を目に塗りなさい.

わたしの愛する者はみな、わたしは叱り、懲らしめる. だから熱心になって、悔い改めなさい. 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている. だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入り、彼とともに食事をし、彼もまたわたしとともに食事をする. 勝利を得る者には、わたしとともにわたしの御座に座ることを許そう. ちょうど、わたしも勝利を得て、父とともに父の御座に座っているように. 耳のある者は、御霊が諸教会に言われることを聞きなさい. ヨハネの黙示録 3:14-22.

金と白い衣を買い、目に塗る薬を用いるようにという勧告は、単なる死ではなく永遠の死に至る状態に対する明示された治療法である. 金、衣服、そして目に塗る薬が解決するどのような問題であれ、それらの問題は、キリストが私たちの病を負われたことと容易に一致する. ヨハネは、神の言葉とイエスの証し、すなわち預言の霊のゆえに、パトモス島に投獄されていた. 預言の霊はラオデキアに対する治療法であり、その癒やしの効力は、キリストが私たちの病を負い、私たちの痛みを担われたことによって型として示された.

キリストが私たちの弱さを担ってくださるただ一つの方法は、私たちが心の扉を開き、彼の神性が私たちの人間性と結び合わされることを許すときである. 彼は、聖霊の臨在を通して私たちの人生の中にお入りになるとき、私たちの弱さを担ってくださる. 私たちは、その処方を実行することによって扉を開く. 心を開くための処方は、金、白い衣、そして目薬である. 目薬とは、聖霊によってのみ成し遂げられる神の言葉の啓明である. 聖書は私たちの足のともしびであり、道筋を照らす光は真夜中の叫びの光である.

あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です. 詩篇119:105.

ラオデキヤの人が目に油を塗るよう勧められるとき、彼は、ともしびである神のことばをもってそれを行うべきである. しかし、十人の乙女のたとえが示すとおり、油のないともしびは役に立たない. ラオデキヤの人々は聖書を持ってはいるが、一般にキング・ジェームズ版ではない. しかし、彼らには聖霊の油がない. ラオデキヤの人々の目に油を塗ることは、聖霊の臨在を帯びたメッセージによってなされる.

ラオデキヤ人が買うよう勧められている金は、単なる信仰ではなく、愛によって働き、魂を清める信仰である。目薬と同様に、その金にもラオデキヤ人が唱える偽物がある。ラオデキヤ人は、キリスト教界のすべてがそうであるように、自分には「信仰」があると公言する。その種の信仰は単なる人間的な信念にすぎず、金として表されている信仰の偽物である。というのも、その信仰は魂を清めるからである。それは人を聖める信仰であり、真に聖められた信仰を持つ者は聖い。なぜなら、聖められるとは聖くされることを意味するからである。ラオデキヤ人にはその信仰がない。もしそれを持っているなら、キリストが外に立って入ろうとしておられるはずがないからだ。

回復された樂園に至る中途半端な道はない。この終わりの時代に人に与えられたメッセージは、人間の考案と混じり合ってはならない、ということである。私たちは世の弁護士のやり方に頼ってはならない。私たちは謙遜に祈る者でなければならず、サタンの働きによって目をくらまされている者のように振る舞ってはならない。

多く的人是信仰を持っているが、愛によって働き、魂を清める信仰ではない。救いに至る信仰は、単に真理を信じるというだけのものではない。「悪魔どもも信じており、身震いしている。」神の御霊の感化は、人に、品性を形づくり、単なる形式的な行為を超えた高みへと導く、推進力となる信仰を与える。言葉も、行いも、そして霊も、私たちがキリストの弟子であるという事実を証ししなければならない。

神が与えてくださった最も大いなる光と祝福は、この終わりの時代における罪と背教に対する保障ではない。神が高い信任の地位に高められた者であっても、天の光から人間の知恵へと向きを変えることがある。そのとき、彼らの光は闇となり、神から委ねられた能力は罷となり、彼らの品性は神の御前に罪となる。神は侮られる方ではない。神から離れるなら、その確かな結果が、これまででもそしてこれからも必ず伴う。神を喜ばせない行為を犯すことは、もしそれをきっぱり悔い改めて捨て去らず、むしろそれを正当化しようとするなら、悪を行う者を欺きの中で一歩一歩進ませ、ついには多くの罪が罰せられることもなく犯されるところへと導く。神と共に働く者となり神の称賛を受けるにふさわしい品性を持つようとするすべての者は、神の敵から身を離し、キリストがヨハネに託して世に告げさせた真理を堅く保たなければならない。Manuscript Releases、第18巻、30-36。

「白い衣」はキリストの義である。

私たちは喜び楽しみ、彼に栄光を帰そう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁は用意を整えたからである。彼女は、輝く清い細布を身にまとうことを許された。この細布は聖徒たちの正しい行いである。彼はまた私に言った。「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いである。」さらに彼は私に言った。「これらは神の真実のことばである。」ヨハネの黙示録 19:7-9

妻は、ラオデキヤに与えられた三つの良薬を用いて自らを整え、そうすることでフィラデルフィアの花嫁へと変わった。これらの聖句はアドベンティズムに直接語りかけており、それは十人の乙女のたとえにおいて表されている。乙女たちは、自分たちが招かれた婚宴に行くのを待っている者たちである。花嫁は自らを整えた。なぜなら、ゼカリヤ書3章（ヨシュアと御使いの箇所）において、そのことが許されているからである。そこで彼女の汚れたラオデキヤの衣は脱がされ、白い亜麻布の婚礼の衣に取り替えられた。その良薬は

、エレン・グールド・ホワイトという名の中にも第二の証しを与えている。エレンは明るく輝く光を意味し、目薬を表す。Gould

は古英語で「金」を意味し、すなわち金である。White は義を表す。この名が彼女に与えられたのは1846年、ジェームズと結婚したときであり、その時に彼女の姓はホワイトへと変わった。改名と結婚はいずれも契約関係の象徴である。結婚前の彼女の姓はハーモンで、それは「平和の兵士」を意味し、当時の彼女自身を表していた。エレン・ホワイトこそラオデキアへのメッセージであり、彼女を拒むことは救いを拒むことである！

今回の記事で、マタイの福音書にあるメシアに関する十二の預言の検討を続けます。

黙示録3章14節から18節を引用。

ああ、なんという描写だろう！ この恐るべき状態にある人が何と多いことか。私は、すべての牧師に、黙示録第3章を熱心に学ぶよう切に願います。そこには、終わりの日に見られる物事のありさまが描かれているからである。この章の一節一節を注意深く学びなさい。これらのことばを通してイエスがあなたに語りかけておられるのだから。

「もしラオデキアのメッセージで代表される民があるとすれば、それは、セブンスデー・アドベンチストが受けてきた聖書の啓示という大いなる光を持つ民である。」  
『マニスクリプト・リリース』第18巻、193ページ。

真に神の戒めを守る民は、世に一点の曇りもない誠実な品性を示し、自らの行いによって、主の律法は完全で、魂を立ち返らせるものであることを証しする。このようにして、神の御子である主イエスは、神の律法に対するご自身の従順によって、その律法を高く掲げ、その尊厳をあらわされた。神は、自らをセブンスデー・アドベンチストと称するあらゆる教会の会員のうち、神に仕えることをせず、かえって高慢・利己心・世俗性によって、天からの真理がその人の品性に改革をもたらしていないことを示している者を、必ずさばかれる。

ヨハネの黙示録3章15～18節をよく読んでください。イエス・キリストの声が聞こえます。「わたしが愛する者を皆、責め、懲らしめる。だから、熱心であれ〔中途半端ではなく〕、悔い改めよ。見よ、わたしは〔あなたがたの救い主〕戸口に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って、彼と共に食事をし、彼もわたしと共に食事をする。勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座に着くことを許す。わたしも勝利を得て、わたしの父と共に父の御座に着いたように」〔ヨハネの黙示録3章19～21節〕。

諸教会はラオデキヤ人へのメッセージに耳を傾けるだろうか。彼らは悔い改めるのか。それとも、真理の最も厳粛なメッセージ—第三天使のメッセージ—が世に宣べ伝えられているにもかかわらず、罪のうちを歩み続けるのか。これは墮落した世への最後のあわれみのメッセージ、最後の警告である。もし神の教会がなまぬるくなるなら、倒れ、悪霊の住みか、あらゆる汚れた霊の巣、また、あらゆる汚れて憎むべき鳥の檻となったと描写されている諸教会と同様に、神の御前に受け入れられない。真理を聞き受け入れる機会が与えられ、セブンスデー・アドベンチスト教会に加わり、自らを神の戒めを守る民と称しながらも、名ばかりの教会以上の生命力も神への献身も持たな

い者たちは、神の律法に反対する教会と同様に、確かに神の災いを受けることになる。真理によって聖められた者だけが、キリストがご自身を愛しその戒めを守る者たちのために備えに行かれた天の住まいにおいて、王家を構成するのである。

「『彼を知っていると言いながら、その戒めを守らない者は偽り者であり、その人のうちには真理はない』[ヨハネの第一の手紙 2:4]. これは、神を知り、その戒めを守っていると主張しながら、善行によってそれを示さないすべての者を含む。彼らはその行いに応じて報いを受けるであろう。『彼のうちにとどまる者は罪を犯さない。罪を犯す者は、彼を見たこともなく、また彼を知らない』[ヨハネの第一の手紙 3:6]. これは、セブンスデー・アドベンチストの教会員を含む、すべての教会員に向けられている。『子たちよ、誰にも欺かれてはならない。義を行う者は義人である。彼が義であるように、その者も義である。罪を犯す者は悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。このために神の御子が現れた。悪魔のわざを打ち壊すためである。神から生まれた者はだれでも罪を犯さない。神の種がその人のうちにとどまっているからである。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができない。これによって、神の子らと悪魔の子らが明らかになる。義を行わない者は神からの者ではなく、兄弟を愛さない者も同様である』[ヨハネの第一の手紙 3:7-10].」

安息日を守るアドベンチストであると称しながら、なお罪のうちに歩み続ける者は、神の御前では偽り者です。彼らの罪深い歩みは神の働きを妨げています。彼らは他の人々をも罪へと導いています。神からの御言葉が、私たちの教会のすべての会員に向けて語られています。「あなたがたの足のためにまっすぐな道を作りなさい。そうすれば、なえているものが道から外れないで、むしろ癒やされるように。すべての人との平和を、また、きよさを追い求めなさい。これがなければ、だれも主を見ることはできません。だれも神の恵みから漏れることのないように、また、苦い根が芽を出してあなたがたを悩ませ、そのために多くの者が汚されることのないように、よく注意なさい。さらに、一皿の食物のために自分の長子の権利を売り渡したエサウのような、淫行の者や神聖を踏みにじる者がいないようにしなさい。あなたがたが知っているとおおり、彼はのちに祝福を受け継ぎたいと望んだとき、退けられました。涙を流して熱心に求めても、悔い改めの機会を見いだすことができなかったからです」[ヘブル人への手紙 12:13-17].

これは、真理を信じていると主張する多くの人々に当てはまる。彼らは自分たちの情欲的な行いを捨てる代わりに、サタンの欺く詭弁のもとで誤った教育の道へと踏み出していく。罪は罪として見分けられない。良心そのものが汚され、心は墮落し、思いに至るまで絶えず腐敗している。サタンは彼らを囮として用い、全存在を汚す不潔な行為へと魂を誘い込む。「モーセの律法[それは神の律法であった]を侮った者は、二人または三人の証人のもとで、あわれみなく死に処せられた。では、神の子を踏みにじり、自分がその血によって聖別された契約の血を汚れたものと見なし、恵みの御霊を侮った者は、どれほどさらに重い処罰に値すると思うか。というのは、『復讐はわたしのもの、わたしが報いる』と主は言われる、という方を私たちは知っているからである。また、『主はご自分の民をさばかれる』とも、『生ける神の御手に落ちることは恐ろしいことだ』[ヘブライ人への手紙10:28-31].」Manuscript Releases, 第19巻, 175-177.